令和４年度
2023年３月発行
NEWS

島本町生活支援体制整備協議体

ささえ愛ネットワーク通信

ささえ愛ネットワークは、町内で高齢者に関わる団体・組織と町、社会福祉協議会でつくる“支え合いの輪を広げるチーム”です。
（構成団体：年長者クラブ連合会、民生委員児童委員協議会、介護者家族の会、プロジェクトＷがんばろう若山台、コープこうべ、街かどデイハウス、弥栄の郷、シルバー人材センター、若山荘、ABC 薬局、地域包括支援センター、町高齢介護課、社会福祉協議会）

皆さんは、５年後、10年後、そして将来に向けて、自分たちのまちをどのような地域にしたいですか？
いま全国の市区町村では、地域における支え合い活動を「地域の視点（住民を中心とした多様な主体）で広げていこう！」という取り組みが始まっています。

○ **協議体（ささえ愛ネットワーク）**
地域の多様な主体がメンバーとなり、今やっていることや無理なくできることなどを、みんなで話し合います。

○ **生活支援コーディネーター（地域支え合い推進員）**
協議体と協力しながら、自分たちのまちをより良くしていくために、地域の様々な活動をつなげ、組み合わせる調整役です。

両者が協力しながら、住民の皆さんによる住みよい地域づくりを推進しています。

講演会報告

2月16日（木）、大阪教育大学の新崎国広（あらさき　くにひろ）特任教授を講師に「ささえ愛ネットワーク講演会」を開催しました。地域の皆さん70名が参加、新崎先生ご自身の体験やエピソードを交えながらの熱い語りに聞き入っていました。

講演要旨

新崎国広　先生

福祉とは「ふだんのくらしのしあわせ」のこと。一人ひとり「幸せ」の価値観は違うが、幸せを感じると人は必ず笑顔になる。家族が、学校が、地域が笑顔にあふれ、互いに「幸せのおすそ分け」をし合えるのが地域福祉。つまり「“ふくし”は笑顔づくり」である。

いま、日本ではセルフネグレクトや孤独死、子どもの貧困、ヤングケアラーといった社会的孤立を背景にした地域福祉課題が深刻化している。コロナや物価上昇を背景に、新たな課題も懸念される。

人は社会のなかで孤立すると、生きる気力を失う。地域に暮らす方々だからこそできる目配り・気配り・こころ配りという“お節介”＝節度のある介（なかだち＝コーディネート）で、早期発見と専門職へのホウレンソウ（報告・連絡・相談）、見守りをお願いしたい。

他人の困りごとを放っておけない「世話焼きさん・お節介さん」は“助け上手”な方だと思うが、ぜひ“助けられ上手”にもなってほしい。自分一人でできないことは人の助けを受けながら、信頼でき、頼りになる人を増やしてほしい。
それが「互近助（ごきんじょ）」（近隣の人が互いに支えあうしくみ）の力となり、そうしてつながり続ける地域づくりが「支え合いのまちづくり」ということではないか。

写真）支え合いの地域づくりについて学んだ講演会